実施	平成28年度

事務事業事後評価表

≪基本情報≫

事務事業の名称【1】	音楽の都づくり事業	所管課【2】	文化課
		評価者（担当者）	村上とも子
総合計画での位置付け【3】	基本目標（章）	③人をはぐくむまちづくり	重点施策【4】
	主要施策（節）	(6)「音楽の都　玉名」づくり	☑該当
	施策区分	(1)「音楽の都　玉名」づくりの推進	
	（市民意識調査結果）	☐【A】重点改善領域　☐【B】重点維持領域　☐【C】観察領域　☑【D】維持領域	
実施の根拠（複数回答可）【5】	☑市長公約　☐新市建設計画【　年度予定　：　金額　千円】 ☐法令、県･市条例等【　】 ☑その他の計画【「音楽の都玉名」目指して（政策推進ビジョン）】　☐該当なし		
事業区分【6】	☑ソフト事業　☐義務的事業　☐建設･整備事業　☐施設の維持管理事業 ☐内部管理事務　☐計画等の策定事務		
会計区分【7】	☑一般会計　☐特別･企業会計【　】	款 10	項 5　目 8　細目 3

≪事務事業の目的≫

事務事業の実施背景（どのような問題又はニーズがあるのか）【8】	玉名女子高等学校と専修大学玉名高等学校の吹奏楽部が全国トップレベルバンドに成長し、「玉名の音楽は盛んなんだ」という意識がより一層高まり一定の成果を得てきたものの、「音楽イコール玉名」としては市内外に浸透していないため、玉名市を「音楽の都」として成長させる必要がある。
対象（誰、何に対して）【9】	市民・他市町村民及び芸術文化団体・音楽関係者
意図（どのような状態にしたいのか）【10】	豊富で貴重な音楽資源を有効に活用し、魅力ある音楽活動を展開することで、市民に音楽文化の素晴らしさと、全ての人々が音楽を通して感動できる音楽都市の形成を目指す。

≪事務事業の概要≫

事業期間【11】	☐単年度のみ【　年度】　☑単年度繰返し【H17　年度から】　☐期間限定複数年度【　年度～　年度まで】	
事業主体【12】	☐国　☐県　☑市　☐民間　☐その他【　】	
実施方法【13】	☐直営　☐全部委託　☑一部委託　☐補助金等交付　☐その他【　】	
事務事業の具体的内容【14】	・市民音楽祭実行委員会等の支援やスクールバンドコンサート、街中コンサート等の音楽活動を推進する。 ・市内小中学校等へ出前コンサート等を実施する。 ・庁内プロジェクトチームが中心になり政策推進ビジョンに基づく取組を推進する。 ・タマにゃん缶バッジを制作し、各種イベント等で配布する。 ・玉名にゆかりのある歌を掘り起し、制作したCDを配布する。	⇒ 事務事業を構成する細事業【15】 ① 音楽推進事業 ② 人材育成事業 ③ 推進強化対策検討業務 ④ タマにゃん缶バッジ制作事業 ⑤ 地元の歌掘り起こし事業

≪事務事業実施に係るコスト≫

				H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度予算	全体計画
投入コスト	事業費（千円）	国庫支出金	%					
		県支出金	50 %	6,471				
		起債	%					
		受益者負担						
		その他		2,168		802		
		一般財源		8,266	3,707	3,110	5,393	
		【16】小計		16,905	3,707	3,912	5,393	0
		[再掲]臨時・非常勤職員人件費（千円）		155	233	32	369	
	職員の人件費	職員人工数		1.10	1.00	1.20	1.20	
		職員の年間平均給与額（千円）		5,424	5,761	5,761	5,761	
		【17】小計		5,966	5,761	6,913	6,913	
合計				22,871	9,468	10,825	12,306	

≪事務事業の手段と活動指標≫【18】

事務事業を構成する細事業		手段（細事業の具体的内容）	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
①	音楽推進事業	会場の充実及び出演団体等の活性化を図る。	音楽イベント開催回数	回	2	5	14	11
②	人材育成事業	小中学校等を対象に出前コンサートを行う。	アウトリーチ開催回数	回	20	26	29	35
③	推進強化対策検討業務	プロジェクトチームで対策の検討を行う。	プロジェクト会議開催回数	回	3	1	3	5
④	タマにゃん缶バッジ制作事業	缶バッジを制作し、イベント等で配布する。	配布数	個		6,000	0	5,000
⑤	地元の歌掘り起こし事業	歌を収集し音源化、CD化を行い、配布する。	収集曲数	曲		36	15	15

≪事務事業の成果≫【19】

成果指標（意図の数値化）		計算方法又は説明	単位	H25目標	H26目標	H27目標	H28目標
				H25実績	H26実績	H27実績	
1	音楽イベント来客者数（市民音楽祭を除く）	スクールバンドコンサート・出前コンサート合計来客数	人	2,500	2,700	4,000	4,000
				3,041	4,000	3,861	
2	市民音楽祭入場者数	市民音楽祭の会場に入場した人数	人	850	850	850	850
				800	800	650	

≪事務事業の評価≫

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性〈判定〉A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	☐ 問題あり ☑ 問題なし	廃止等の場合、市民が音楽のあふれるまちづくりへの参画機会を失われ、市が目指す将来像を構築できなくなる恐れがある。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	☐ 問題あり ☑ 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	☑ 影響あり ☐ 影響なし	
有効性〈判定〉C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	☐ 達成 ☑ 未達成	市民音楽祭をはじめコンサート等を支援しその質を高めることで更なる内容の充実を図り広く市民に「音楽の都」を浸透させる。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	☑ 余地あり ☐ 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	☑ 十分 ☐ 不十分	
効率性〈判定〉B	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	音楽の都づくりについては、民間主導の体制構築が課題であり、アウトリーチ事業等を推進していくことで、音楽文化の裾野を広げながら、新たな担い手となる人材の育成を図っていく。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	☑ 余地あり ☐ 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	

≪今後の方向性と改善≫

今後の方向性【31】	☑ 拡充して継続　☐ 現状のまま継続　☐ 縮小を検討　☐ 休止・廃止を検討 ☐ 細事業の効率化【 ☐ 改善・見直し　☐ 民間活用　☐ 他事業と統合　☐ 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	平成28年度に新たな推進計画を策定し、積極的な情報発信や普及・啓発活動により「音楽の都　玉名」の意識を高め、民間主体の推進体制の構築を目指す。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

		評価責任者
評価責任者（課長）の所見【33】	豊富で貴重な音楽資源を有効に活用し、音楽の都づくりを目指すうえで、子ども、若者を中心にさらに幅広い市民が参加できる機会をつくる必要がある。	竹田　宏司